

研究員 の眼

2023年の暦など 祝日と、太陽・月などの様子 流星群その他

保険研究部 主任研究員 安井 義浩
(03)3512-1833 yyasui@nli-research.co.jp

2023年版の理科年表などが発行されたので、いつものように暦の部分からいくつか紹介することにしてしよう。

西暦2023年（令和5年）は、平年（365日）で、干支は癸卯（みずのとのおう）である。

2023年の祝日は、以下の通りとなっている。

2020年・2021年と、東京オリンピックの開会式・閉会式への対応で、特例措置として海の日、山の日、スポーツの日が変更されていたが、その後は2022年に引き続き2023年にもそのような特例措置はなく、もとの祝日法で定められている日のままである。

【国民の祝日】

2023

祝日	2023年は	(参考) 祝日法の定め
元日	1月1日(日)	1月1日
成人の日	1月9日(月)	1月第2月曜日
建国記念の日	2月11日(土)	政令で定める日
天皇誕生日	2月23日(木)	2月23日
春分の日	3月21日(火)	春分日
昭和の日	4月29日(土)	4月29日
憲法記念日	5月3日(水)	5月3日
みどりの日	5月4日(木)	5月4日
こどもの日	5月5日(金)	5月5日
海の日	7月17日(月)	7月第3月曜日
山の日	8月11日(金)	8月11日
敬老の日	9月18日(月)	9月第3月曜日
秋分の日	9月23日(土)	秋分日
スポーツの日	10月9日(月)	10月第2月曜日
文化の日	11月3日(金)	11月3日
勤労感謝の日	11月23日(木)	11月23日

1月2日(月)が振替休日

【太陽に関する情報(2023年)】

		日の出(東京)	日の入(東京)
春分	3月21日	5:44	17:53
夏至	6月21日	4:25	19:00
秋分	9月23日	5:29	17:38
冬至	12月22日	6:47	16:32

【月に関する情報(2023年)】

	(日)				
	望(満月)	下弦	朔(新月)	上弦	望(満月)
					
1月	7	15	22	29	
2月	6	14	20	27	
3月	7	15	22	29	
4月	6	13	20(日食※1)	28	
5月	6(月食※2)	12	20	28	
6月	4	11	18	26	
7月	3	10	18	26	
8月	2	8	16	24	31
9月		7	15(日食※3)	23	29
10月		6	15	22	29(月食※4)
11月		5	13	20	27
12月		5	13	20	27

(理科年表 2023 より筆者作成)

※1 日本では太平洋岸または沖縄・小笠原など南のほうで部分的に欠ける程度

※2 半影月食(薄い影に入るのみ)

※3 日本では見られない。

※4 部分月食。日本では早朝月没頃

【日食と月食】

日食は、2023年には5月20日と9月15日の2回、月食は5月6日と10月29日の2回あるが、日本ではさほど観測条件がよくないようである。

【流星群の出現時期】

先日(2022年12月中旬)、ふたご座流星群は、相当多くの流星が見られたようである。今回も流星群の情報をみておこう。

流星(流れ星)とは、宇宙空間にある直径1mm~数cmのチリの粒が地球の大気に飛び込んで、大気と衝突してチリが気化する際に、光を放つ現象である。

そのチリは、いろいろな彗星がその軌道上に放出して密集している。そして地球がその位置に差し掛かると多くのチリが飛び込んでくる。地球が、特定の彗星の軌道に差し掛かる日時は、毎年ほぼ決

まっているので、こうした流星群の出現が予測できる。ただし年によって「チリの中の通り方」などの条件が異なるため、どれほどの数の流星が出現するかは、様々である。

(主な流星群)

流星群名	出現期間	極大時刻	予想される 1時間当たり出現数	極大日の 月齢	観測条件
1 しぶんぎ座	1/ 1 ~ 1/ 7	1/ 4 13時	30	11	悪
2 4月こと座	4/16 ~ 4/25	4/23 10時	10	2	最良
3 みずがめ座 η (イータ)	4/25 ~ 5/20	5/7 00時	7	16	最悪
4 みずがめ座 δ (デルタ) 南	7/15 ~ 8/20	7/31 03時	7	13	最悪
5 やぎ座 α	7/10 ~ 8/25	7/31 03時	3	13	最悪
6 ペルセウス座	7/20 ~ 8/20	8/13 17時	50	26	良
7 はくちょう座 κ (カッパ)	8/ 8 ~ 8/25	8/17 20時	5	0	最良
8 9月ペルセウス座 ε (イプシロン)	9/ 5 ~ 9/17	9/10 08時	7	24	良
9 りゅう座	10/ 5 ~ 10/13	10/9 16時	3	23	良
10 オリオン座	10/10 ~ 11/ 5	10/22 09時	20	7	最良
11 おうし座南	10/15 ~ 11/30	11/6	5	22	悪
12 おうし座北	10/15 ~ 11/30	11/13	7	29	最良
13 しし座	11/ 5 ~ 11/25	11/18 14時	20	4	最良
14 ふたご座	12/ 5 ~ 12/20	12/15 04時	80	2	最良
15 こぐま座	12/18 ~ 12/24	12/23 13時	5	10	悪

(天文年鑑 2023 より筆者作成)

流星群の名前は、その「発射地点」のように見える背景の星座（あるいはその中のもっと特定の星）によって命名されることになっている。あくまでも発射の中心点のある（すなわち地球が向かっている方向）星座で代表して名付けているだけで、実際には流星は全天で飛んでいるので、星座のあたりだけ凝視する必要はないようだ。

上の表の中で、しぶんぎ座、ペルセウス座、ふたご座のそれぞれの流星群のことを指して、3 大流星群と呼び、毎年比較的安定して出現するものである。なお「しぶんぎ座」というのは現在の正式な星座名ではないが、りゅう座、ヘルクレス座、うしかい座の境界付近にかつて設定されていた星座である。

空が暗い方が、流星のわずかな光も見えるので、月が流星の観測条件を左右する。そこで表中に、その頃の月の様子が示されている（もちろん空が晴れていなければならないのはいうまでもない）。月齢は0~約30を繰り返し、一ケタあるいは20台後半は新月や三日月状なので観測条件は良いが、反対に月齢15は満月で、その前後は月が綺麗なのは結構なのだが、流星は月光にかきけされて見にくいので「悪」とか「最悪」となる。（ちなみに先日のふたご座流星群も、月がでていたため、観測条件は「悪」ではあったが、それでも多くの流星が見えた。）

その他の情報

ハレー彗星は細長い楕円軌道で75年かけて太陽の周りをまわっているが、2023年の終わりごろ、ようやく太陽から最も遠いところ（遠日点 太陽から地球の距離の約35倍）を折り返して、近づいてくる。前回の接近は1986年、次回は2061年に最接近すると計算されている。果たしてもう一度みることはできるのか？